

質問	回答
DB, BIを活かすとありますが、具体的な手法などの資料や情報はありますか？	ライブ中継で回答済み
DynamoとChatGPTの今後の動きはありますか？ChatGPTでpythonコードも作成できるようなので、Dynamoへの運用も可能かと思えます。	ライブ中継で回答済み
各社で大規模言語モデルを学習させているように見えたが、計算リソースが問題になると思います。各社、AWSなどで学習をやっているのでしょうか？	ライブ中継で回答済み
GPTに独自の参照DBを追加してサービスを構築する場合には、自分で独自のDBを学習データとしてAIを構築する場合とどう異なるのか？自然言語UIを実現するためだけにGPTは存在する？	<p>■1: 学習データとDB参照 目的によるのですが、「プロジェクトの状況を把握する」というようなシチュエーションの場合、学習されたデータよりもそのままの情報を受け取ることが重要になります。学習データはどうしても情報の輪郭が曖昧になってしまいますので、学習させるのかDB参照にするのかは目的に応じて使い分けるのが望ましいと考えています。</p> <p>■2: GPTは自然言語UIを実現するためだけに存在するのか 今回はセミナーのテーマからそのような表現を用いましたが、必ずしもGPTの特徴は自然言語UIに限らないと思います。 例えば、「情報伝達の過程において過剰な表現を削ぎ落として要点だけに絞る」といったような、文章に付随してしまう装飾を剥ぎ取るような利用方法が考えられます。 他にも、本来ならば複雑なコーディングが必要な作業を、自然言語的な命令で分岐処理を簡易に構築するなどもあり得ます。 ただこれらはGPT自体をワークフロー内に組み込む時に想定されます。今回はもう少しAIの入口話に限定したいと思いましたが、GPTの用途は非常に限定的な表現に留めております。</p>
本日の講演資料のダウンロード先のURLを教えてくださいませんか？	https://bim-design.com/infra/event/
業務フロー内でデータを活用する場面をデザインする体制やそのサポートについてもサービスがあれば教えてください。	オートデスク社としてご質問のような有償のサービスは残念ながらご用意がないのですが、弊社営業担当を通じてお声がけを頂ければディスカッションさせて頂くことなど対応できることがあるかもしれません。
その場でデータベースを検索しているうちに学習していくということにはならないのでしょうか。	この点はちょっといろいろ込み入った話になりますが、「学習」と「履歴からの推論」は区別してよいのではないかと思います。 基本的に「学習」という場合はベースとなるAIに何を覚えさせるかというAI開発企業側の操作として考えてよいのではないかと思います。 会話履歴からの推論の良し悪しはケースバイケースのため、推論が不要ならば都度リセットするなどの方法で対応が可能だと思われます。
これからのBIMの展望についての意見を聴きたいです	個人的な意見としては、「BIM」という言葉は範囲が大きすぎると考えています。「BIM」はあくまで手段なのですが、どうも「BIM」という実態があるかのように解釈されてしまっていると懸念しています。 今回のセミナーとも繋がりますが、これから必要になっていくのは「業務フェーズ単位のDB構築」だと考えていますので、それぞれのフェーズにおいて必要な情報入力単位に合わせたBIMのあり方の模索が必要になっていくと考えています。
RevitでのChat形式のAI利用で、日本語版提供の予定はありますか？	申し訳ありません。現時点ではRevitにChat形式のAI連携が搭載される予定があるとの情報はありません。 ただセミナー内で紹介したように、Revitアドインの開発者さまで取り組まれている方はいらっしゃるよなので、サードパーティプラグインなので登場する可能性はあるかもしれません。
Autodesk Formaと生成AI連携などの情報をリアルタイムに提供してほしい。	ご要望ありがとうございます。社内で検討させていただきます。

質問	回答
<p>AIを使用して住戸内のIoT機器を操作したり建物情報を引き出したりできないか検討しています。この場合、建物情報以外にも各機器の位置情報などをAIに渡せる必要があると思うのですが、gbxml書き出した情報だと膨大かつ不十分かと感じています。このような使用例に適切な接続方法がありましたらご教示頂きたいです。</p>	<p>「AIとIoT機器とBIM」の3つを同時に考えるのではなく、「AIとIoT機器」、「IoT機器とBIM」にそれぞれ分割して考え、また、BIMデータを取り扱う際には形状と属性を区別し、情報の連携と3次元モデル上の表示を切り分けて考えると、情報を減らして作業ができます。 まずは自分がやりたいことに対して、最小限のデータ構造が何になるかを ご検討いただければと思います。</p>
<p>ACCにデータをストアして、紹介事例のよう PowerBIを利用してビジュアライズしたいのですが、DataExchange活用も併せて 解説があると助かります</p>	<p>ご要望ありがとうございます。社内で検討させていただきます。 DataExchangeはRevitのヘルプページに解説がありますので、こちらも含めてご確認ください。 https://help.autodesk.com/view/DOCS/JPN/?guid=Excel_Automate_Data_Exchanges</p>
<p>・他の方の質問にもありましたようにRevitやDynamoからAPIを経由してChatGPT等のAIに接続して業務を変えることを想像していました。Autodesk製品とChatGPT等を接続するとしたら、どのような方法がありますでしょうか？(AddinでAPIと接続、DynamoでAPIと接続、等) ・工事設計のデータ(Revit図面、属性、数量等)を学習させてAIに判断をさせる方法が知りたいです</p>	<p>■1: セミナー内で紹介したユーザーさまのRevit+ChatGPTのような形でRevit内にAddinで実装できる可能性はあると思います。いちばん簡単なのはAddinでwebビューを実装し、その先を全部webで作る方法かもしれません。詳細はRevitアドインの開発企業さまなどにご確認いただければと思います。 ■2: AIはデータベースと接続させられますので、図面、属性、数量をデータベースにまとめればよいかと思います。Revitであれば内部にデータベースを所持していますので、それを何かしらの方法でDBに取り出せば、あとはDBとAIを接続する仕組みの構築になります。 重要なのは、「Revitから勝手にいい感じで情報は取り出されない」、ということです。自分たちが業務で使いたいデータを具体的にする必要があります。</p>